

～目指せ単収 800 kg/10a!～

飼料用米「新潟次郎」栽培情報

平成 28 年 6 月 10 日
岩船農業振興協議会作物部会
村上農業普及指導センター
J A にいがた岩船

◇生育調査ほの調査結果（6月9日現在）

- 草 丈 : 36 ~ 38 cm (やや長い)
- 茎 数 : 217 ~ 339 本/m² (やや少~並)
- 葉 数 : 7.6 ~ 9.1 葉 (進んでいる)
- 葉色(SPAD) : 38.7 ~ 39.4 (並)

5月の高温・多日照により、新潟次郎の生育は順調で、多くのほ場で中干し時期に達しています。

生育の進みに合わせて出穂期も早くなると予想しており、早めの中干し、適期の穂肥施用を行いましょう。



予想出穂期は7月20日頃

- 田植以降高温・多日照で経過しており、現時点の予想出穂期は7月20日頃と考えられます。

穂肥は6月下旬に遅れずに

- 1回目穂肥時期は出穂前25~23日であり、出穂期を7月20日とした場合、6月25~27日となります。
(幼穂長1mm、2枚目の葉抽出始)

穂肥チッソ量は1回2~3kg

- 1回当たりの穂肥チッソ量は、2~3kgとし、2回施用しましょう。

2回目穂肥は大豆跡も施用

- 出穂期の葉色(SPAD)40を目標に、2回目の穂肥は、1回目の10日後をめやすに必ず施用しましょう。基肥一発肥料や大豆跡等でも、施用を検討しましょう。

新潟次郎の今後の管理は？

中干しは早めに終了

- 出穂1ヶ月前頃から穂を作り始めるので、中干しは6月20日頃に終わらせましょう。

溝切りは必ず実施

- 登熟期間の迅速な灌水・排水やコンバインによる収穫作業を容易にするなど、様々な効果が期待できる溝切りは必ず行いましょう。

いもち病・紋枯病に注意

- 多肥栽培であることから、いもち病や紋枯病が多発生する恐れがあります。出穂期を中心とした防除を確実に行いましょう。

カメムシ・雀対策も確実に

- 極早生のため被害が集中するので、防除対策の徹底をお願いします。
- 出穂前の草刈りを徹底しましょう。